

各常任委員会意見交換会実施報告書

令和5年度

総務常任委員会

健康福祉常任委員会

生活環境常任委員会

子ども教育常任委員会

5 多議第 4 1 6 号
令和 6 年 3 月 2 5 日

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

多摩市議会総務常任委員長 小林 憲一

総務常任委員会 意見交換会 実施報告書

令和 5 年 1 2 月 1 2 日付 5 多議第 2 8 3 号にて報告した委員会主催の意見交換会について、下記のとおり実施しましたので、市議会が行う市民意見の把握等に関する実施要綱第 7 条第 5 項に基づき報告します。

記

1 概要

- (1) 日 時 令和 6 年 1 月 2 5 日 (木) 午後 6 時から 7 時 3 0 分まで
場 所 多摩センター商店会事務局 (いすみビル 桜総合管理棟 2 階)
- (2) 対 象 多摩センター商店会 理事
(概要) 多摩センター商店会は、多摩センター駅周辺の商店会で構成されている。地域コミュニティの担い手として、街路灯設置など商店街の安心・安全を確保するとともに、乞田川桜まつり事業や多摩センターイルミネーション事業の充実など、商店会活動を通じて地域社会に貢献し、ひいては地域住民との交流促進を図り、商店街の活性化につながることを目指している。
- (3) 目 的 商店会や地域の現状と課題、その取り組みについて聴取し共有するため
- (4) 経 費 0 円
- (5) 派遣委員 総務常任委員

2 当日の意見交換内容

(1) 街路灯の現状と今後の管理の課題

- 多摩センター商店会が管理している街路灯が約 50 機（玉の数としては×2で 100 灯）あるが、それがメンテナンスできてない。また、長年使用しているため老朽化が進んでいる。電気代については、多摩市から補助はしてもらっているが、100%の補助ではないため、商店会の会費から捻出している状態。収入源が会費以外ないため、街路灯の電気代捻出が大変な負担になっている。
- 上之根大通りについて言えば、周辺には商店会に所属しているお店が 1、2 軒はあるものの、商店会のためではなく町の街灯になっている。それを商店会の費用で電気代を賄うのは納得できないという思いがある。
- 商店会としてはこれを多摩市へ返却したいというのが希望だが、多摩市側からは現状のまま引き受けることはまずできないとのこと。現状ではもう今後管理していくことができない。
- 聖蹟桜ヶ丘の中央商店会も同様の悩みを抱えていると聞く。そのため、多摩センター商店会と中央商店会と連携して、多摩市に対応を求めている。

(2) 多摩センター駅北側 乞田川イルミネーション構想

- 南側はイルミネーションをやっているが、商店会が加盟しているお店は北側が多い。北側が非常に暗い感じになっていて、人が流れてこないというのもある。
- 乞田川を利用したイルミネーションをして、人の流れが北側に向くようなイベントを商店会としては事業としてやっていきたいと考えている。これについては、お金かかることなので、どういう形であれば補助金が出るなど、ご協力いただきたい。
- 桜祭りのイベントを開催する際には、補助金も経済観光課からいただいている。しかし、桜祭りを開催する日程として、4月1日からでなければ補助金が降りない。桜が満開で、一番見ごろである3月末の開催は止められている。そこを臨機応変に考えていただきたい。

(3) 多摩センター駅北側 乞田川上イベント広場構想

- 乞田川の上に蓋をして屋台村のようなものやってみたいという構想がある。現状は多摩センターでちょっとだけ飲みたい時に、そういうお店がないため、つまらない感じがする。できれば乞田川を有効利用して何かできないか構想中。構想ができれば、協力いただきながら進めていきたいと思っている。
- 乞田川は川沿いまで降りることができるが、都心部の神田川などは川沿いまで降りられるようにはなっていない。桜で有名な目黒川に人が集まっているが、乞田川の桜は目黒川と遜色ないほどのポテンシャルを持っていると思う。

(4) 多摩センター駅北側道路 居酒屋によるキャッチの現状

- キャッチは東京都条例では禁止されているが、多摩センター北側の通りではそれがまかり通っている。しかも、歩道をいっぱいに出てきてキャッチをやっているため、北側の通りを避けていく人もいる。多摩センターのイメージもあるため、法律なりをうまく使ってやめていただきたい。
- こちらにも街路灯の問題と同様に、聖蹟桜ヶ丘の中央商店会でもキャッチの問題があり、キャッチ行為をやめるようフラグを立てて対策を行っている。中央商店会とも連携して取り組んでいきたい。

(5) 多摩市 新規開業補助金事業（100万円）の効果

- この事業で補助金をもらえる条件が商工会議所の会員になるか、商店会の会員になるかという条件だったため、非常に多くの方の新規加入をいただいた。非常にありがたいと思います。中に入会后1年後に退会された人もいたが、商店会にとっては、いい会員獲得をさせていただいたと思う。しかし、実際にこれが商店会の経済効果に結びついているかについては、商店会でははかり知ることができないので説明いただきたい。
- 補助金事業の効果は、経済観光課に確認する必要があるが、こういった資料の提出を求めても、京王線、小田急線の乗降者数を出される。乗降者数と経済効果に相関関係があるのかわからない。

(6) 多摩センター駅西側 小田急線高架下空き地の美観

- 多摩センター駅のタクシー乗り場 小田急線高架下は工事現場のバリケードが、何十年もされたまま、放置されている。（京王側高架下はタバコの喫煙所）黄色と黒のバリケードがボロボロになっていて、夏になるとツタが伸びて絡まる状況。非常に美観が悪い。せめて綺麗なバリケードに交換してもらいたい。多摩市からも小田急電鉄に伝えてほしい。

(7) 多摩センター駅西側 多摩市旧ごみ集塵センター跡地の有効利用

- 旧ごみ集塵センター跡地は、現在は倉庫として使っているようだが、駅の近くの官有地を倉庫としてそのまま残しておくのは非常にもったいないと思っている。できれば地元の人を使いやすいような 集会場あるいは広場にしてもらいたい。

(8) 旧京王プラザホテル多摩の再開発に伴う地域の要望

- 京王プラザホテルの跡地については、高層階が分譲マンション、低層階は商業・公共施設という話があった。そんな中、この多摩センター地域の住民が困っていることは、ホールの的なものがないということ。今までは京王プラザホテルの宴会場など、

小さなイベントでも使わせてもらっていたが、それがなくなって非常に困っている。

- パルテノン多摩がリニューアルされたが、部屋を押さえるために半年も前に電話で予約をしなければいけないなど、非常に使いにくい。また永山情報センターも終了してしまうため、本当に集まるどころはなくなってしまふ。
- 多摩市長からは、跡地に立つ建物には3階ぐらいまでにわたって市民が使えるような施設を入れたいと考えを聞いている。3階より上の階にも我々、多摩市民が使えるような施設をたくさん作ることを検討してほしい。

(9) 多摩センターイルミネーションの経済効果

- 多摩センターイルミネーションは、毎年やっていて少しマンネリ化しつつあるように思われる。また、今年からセンターツリーが変わったが、こういったことによってどの程度の経済効果があるものなのか、それが良いことなのか悪いことなのかも併せてご説明いただきたい。
- 新規開業補助金事業と同様に、経済観光課に確認する必要がある。

(10) その他

- 多摩センター周辺は箱が大きすぎると感じる。箱が大きいため、地域の特色あるお店が多摩センターに出店するのはとてもリスクが大きい。そのため、どうしても大手系列の店舗が並びがちになってしまう。そのため、飲食にしても、買い物にしても、多摩センターでなくてもできてしまう。多摩センターでなくてはできない飲食、買い物などを考えていかなければいけない。

3 実施結果

(1) 要望などについて

今回、商店会と意見交換会を行い、様々な意見や希望があったが、その中でも街路灯の課題については、意見交換会の中でも一番多く時間を使い、議論を行った。

商店会としての収入は、会員からの会費であり、年間 120 万円ということであった。一方、街路灯の電気代は、多摩市からの補助が7割あるとはいえ、年間で80万円に上っている。残り40万円では、地域活性化のための商店会活動を行っていくことは難しい。

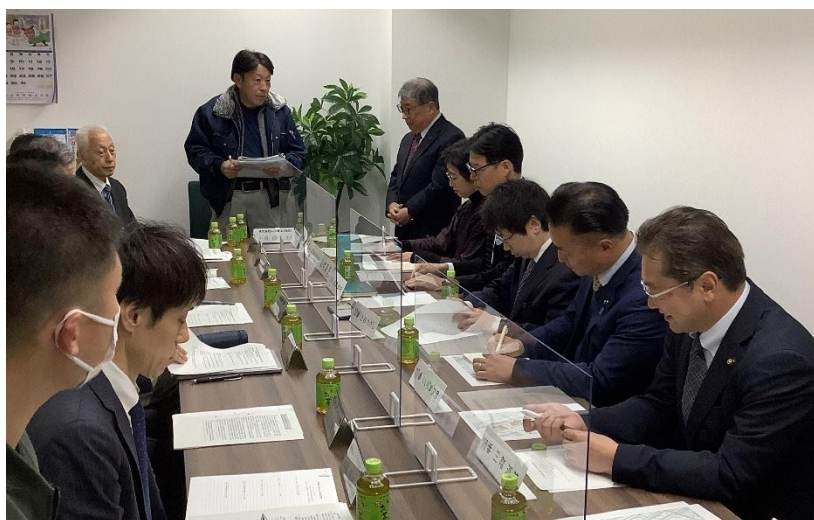
(2) 多摩市としての課題

多摩センター商店会で所有・管理する「装飾街路灯」は、設置以来30年弱が経ち、錆による腐食が進み、倒壊する恐れがあり、その老朽化対応が必要である。設置された平成8年(1996年)当時とは経済状況も変わり、商店会も会員数が減少しており、

街路灯の維持管理が厳しくなっていることを踏まえての対応が望まれる。

多摩センター駅西側にある高架下の利用やタクシー乗り場の改善、京王プラザホテル多摩跡地にできる施設への要望など、多摩センター駅周辺に関わる課題は、鉄道事業者やUR都市機構、新都市センター開発等との連携・協力なしでは解決できない課題が少なくない。まずは多摩センター商店会自身がそれらの事業者等に声を上げていくとともに、多摩市もそれらの課題にしっかりと目を向けるべきである。

多摩センター駅周辺は、1つ1つの店舗の規模が大きく、チェーン店など大規模施設しか借りられず、小規模な地元の事業者が進出できないといった指摘があったように、そもそもこれまでの街の作られ方から生じている課題もある。現在の多摩センターを活性化させるにふさわしい街づくりができるよう、多摩市から関係者に対して改善を求めていくことが必要である。



5多議第408号
令和6年3月18日

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

多摩市議会健康福祉常任委員長 藤原 マサノリ

常任委員会意見交換会 実施報告書

令和5年12月13日付5多議第290号にて報告した委員会主催の意見交換会について、下記のとおり実施したので、多摩市議会が行う市民意見の把握等に関する実施要綱第7条第5項に基づき報告します。

記

1 概要

- (1) 日 時 令和6年1月11日(木) 午後2時～4時
場 所 多摩市立関戸公民館 第3学習室
- (2) 対 象 者 TAMA 認知症介護者の会 いこいの会 会員
- (3) 実施目的 認知症の方及びそのご家族への支援について、市民意見を聴取するため
- (4) 実施経費 なし
- (5) 派遣委員 藤原 マサノリ・池田 けい子・池田 桂・藤條 たかゆき
折戸 小夜子・しのづか 元・きりき 優

2 当日の意見交換内容

別紙「TAMA 認知症介護者の会 いこいの会との意見交換会」のとおり

3 実施結果

今回の意見交換会委員会をふまえて、認知症の方及びそのご家族への支援について、引き続き所管事務調査として調査していく。

TAMA 認知症介護者の会 いこいの会との意見交換会

参加者：TAMA 認知症介護者の会 いこいの会・みらいの会 8名
健康福祉常任委員 7名、事務局職員 2名 計 17名

【意見交換会概要】

- ・藤原委員長より、市民との意見交換会は多摩市議会基本条例に基づき、市議会として市民の多様な意見を把握し意思決定に反映させるため実施されていること、さらに委員会が掲げた 2 年間のテーマに係ることからご足労いただいたことの御礼と説明後、出席者の自己紹介を行った。
- ・いこいの会の皆様からご意見・ご要望等をいただき、意見交換を行った

【主な意見・要望等】

- ・妻の認知症診断を受けてショックを受けた。認知症についての知識が全くなく、専門先に問い合わせることなどの知識も当時はなかった。
- ・デイサービス等を利用する効果など疑問。
- ・いこいの会での時間が安らげる時間となった。
- ・市内一定のエリア毎にみんなのトイレ設置を望む。
- ・ケアマネージャーは正しいことを言っているのかもしれないが、専門の方の視点、いこいの会では当事者目線でのアドバイスをしてくれる。
- ・介護専門職は余裕がなくなっているのではないか。
- ・認知症になったからといって迷惑な存在になったということではない。
- ・介護保険がスタートした当時はいろいろ使い方も融通が効いた。
- ・介護保険などで対応できない部分のサポートの検討をお願いしたい。
- ・ボランティアなど、多摩市独自の移動支援などもあって欲しい。
- ・町田市の DAYS BLG（認知症デイサービス）当事者が選択できて、やりたいことができるそのような施設を、多摩市もぜひつくってほしい。
- ・本人の要求をきちんと聞き取れるよう、介護者に補聴器の助成を要望。
- ・多摩市の GPS 端末は当事者が身につけて移動するには大きすぎ、GPS 機能を使いこなせる方は少ない、
- ・使用に関しては、認知症当事者の意思を確認することが大切。
- ・災害時、在宅介護の不安…ベット型シェルターなど購入補助の検討願いたい。
- ・フランクに認知症だということを伝えられない方も多い。
- ・「認知症」マークがあっても良いのではないか。

【委員より質問・意見交換】

- ・委員会で視察に訪れた四日市市では、GPS の代わりに QR コードを活用していたが、二次元コードの活用についてはどうか

→当事者の了解が取れるのかどうか。

→縫い付けたり持ち物に貼ったり介護者の負担が増すのではないか。

- ・視察先の大府市では認知症サポーターが 2 万人以上いる。子ども達への認知症サポート教育に力を入れたり、「徘徊」から「一人歩き」と言い換えるなど多摩市でもソフト面でサポート（見守れる）環境づくりが大切だと思うが…

→オレンジパートナーさんが活動できる範囲もまだまだ限られている。認知症条例を作るなど、機運情勢が必要だと思う

- ・近所で認知症だということをオープンにした（オープンにできる）地域、環境づくりをサポートしていきたいと思うが。

→認知症だと、周りに分かってもいいと介護者も受け入れられるかも大事。

- ・地域参加型介護サポート（国立市実施）共助の制度広げていきたいと思う。

→サポートに入ってくれる方が 1 時間でも 2 時間でもいれば、介護者も気持ちを立て直す時間を作れる。→当事者も介護者と 24 時間 365 日付き添っているよりは、気分も楽になるのではないか。



多摩市議会議長 三階 道雄 殿

常任委員会意見交換会 実施報告書

生活環境常任委員長 渡辺 しんじ

令和5年12月14日付5多議第298号にて報告した委員会主催の意見交換会については、下記のとおり実施したので、多摩市議会が行う市民意見の把握等に関する実施要綱第7条第5項に基づき報告します。

記

1 概要

- (1) 日 時 令和6年1月23日(火曜)午前10時～午前11時30分
- 場 所 ゆう桜ヶ丘
- (2) 対 象 者 桜ヶ丘の移動を考える会
- (3) 実施目的 地域公共交通について市民意見を聴取するため
- (4) 実施経費 なし
- (5) 派遣委員 渡辺 しんじ 岸田 めぐみ おにつか こずえ
橋本 由美子 しらた 満 石山 ひろあき

2 意見交換内容 別紙「桜ヶ丘の移動を考える会との意見交換会報告書」のとおり

3 実施結果 別紙「桜ヶ丘の移動を考える会との意見交換会報告書」のとおり

桜ヶ丘の移動を考える会との意見交換会報告書

日時 1月23日 10時～11時30分

場所 ゆう桜ヶ丘

参加者 桜ヶ丘の移動を考える会会長 井上さん 桜ヶ丘の移動を考える会副会長 木村さん
西桜寿会会長 篠崎さん 東桜寿会会長 渡会さん
全国移動サービスネットワーク理事 杉本さん ゆう桜ヶ丘運営委員 藤原さん
生活環境常任委員会 渡辺・岸田・おにつか・しらた・石山 +議会事務局2名

1 意見交換内容

○桜ヶ丘の移動を考える会のこれまでの過程

2019年6月に、多摩市役所高齢支援課及び第一層コーディネーター（多摩マイライフ包括支援協議会）の呼びかけにより、第二層コーディネーター（多摩市福祉協議会）やまるっと協議体、桜ヶ丘地区の住人代表を含めて発足。毎月一回のペースで会議を行い事業化の検討が行われた。2020年1月より実証実験を行い本格稼働へ移行したが、コロナ禍により一旦中断となった。2021年4月から会員送迎を再開している。

○桜ヶ丘の移動を考える会の活動内容

個人所有の車両を無償借用で用い、桜ヶ丘集会所にて月二回行われる老人会（西桜寿会、東桜寿会）への参加促進のための車両による移送サービスを行っている。送迎は運転者1名と介助者1名が無償ボランティアで行っており、専用の車両保険もかけている。利用者からは料金を払いたいという申し出はあるが、利用料の徴収はしていない。保険料とガソリン代は市の事業から頂いている。

○活動についての広報

「桜ヶ丘の移動を考える会の活動紹介」のちらしをつくり、皆さんにお知らせをしている。また多老連会報「朋友」や「タウンニュース」に会の活動がのった。

○桜ヶ丘地区の公共交通の試み

小型車両路線バス実証実験に関する説明会が、2020年11月24日、11月27日、12月5日と開かれ、ワゴン型バス「near くる」が2021年3月15日～3月28日に運行実施された。駅から桜ヶ丘まで乗車賃が一回300円ほどだった。桜ヶ丘の中に細かく仮の停留所が作られているので、乗車するときに自分が降車したい停留所番号を入れると機械がルートをつくり、運行するというものだった。駅から桜ヶ丘まで上がってくるのに、いい手段だと感じた。しかしその後がどうなったかはわからない。

○ゆう桜ヶ丘の改修について

改修時には道路交通課とコミュニティ・生活課から、ゆう桜ヶ丘の入り口に原峰公園を削り、バスが待機できる場所をつくるという話が出ている。

○桜ヶ丘に関して数値から見えてくること

桜ヶ丘1～4丁目 6千人程住んでいる。世帯数は3千世帯程。

→核家族が多い。

年齢は 一番多いのが41～60代 800人 71～80代 844人

→桜ヶ丘の移動を考える会が行っている送迎の必要性が高まってくるのがわかる。

○桜ヶ丘の移動を考える会と近しい活動をしている団体

川崎市宮前区 自治体会員向けのコミュニティバス

運行日時 月・水・金 9時から15時

運転手は有償ボランティアがワゴン車を運転。

自治体会員は無料。

○最重要は安全 事故はゼロ

何かあった時のマニュアルを作成し、運行時には携帯している。講習会の受講もしている。

○桜寿会と桜ヶ丘の移動を考える会の担う役割

とにかく引きこもりの人に家から出てきてもらうことが大事である。それは高齢支援課長の五味田さんも同意見。しかし高齢者の外出には足の問題がある。桜ヶ丘の移動を考える会の送迎ができてから、桜寿会の参加を頼んでも増えなかった会員が増えた。しかし今は高齢化もあり会員が増え、会場の問題が出てきている。2時間の桜寿会の参加で、顔色が良くなる。

○車の保険料

専用の保険 1台4800円/年 実施回数で金額が変わるので、毎月報告している。

○桜ヶ丘の移動を考える会での苦労

迎えに行ったら、予定を忘れている、忘れ物をとりに戻る、自分の荷物をどこにしまったかわからなくなるなど、不測の事態が起こる。(対応ができるように、運転者と介護者の2人で送迎に行くようにしている。) 老人会以外でも利用したいというニーズは高いが、ボランティアは自分の時間を犠牲にして行っているため、応えられていない。

○移動のニーズ

今は老人会のみを送迎なので、ゆう桜ヶ丘や集会所のサークルにも利用したいという要請もある。駅は聖蹟桜ヶ丘に、通院のために永山にも出たい。

○提案

中国の深圳はガソリン車が走らず、電気自動車が走っている。音が静かで空気がきれい。視点を改めて考えるのはどうか。

市が主導して研修してはどうか。

所管を越えて横断的に考えてほしい。

全部やろうとすると難しいと思うので2～3的を絞って、とにかく実行してほしい。

○地域コミュニティ

仕事をしながらでも、できる範囲で携われるので自治会にも参加できる。自治会に入ることによって地域の人と出会いが増える。

○送迎をする中で気になっていること

ロータリーに進入するとき、一時停止をしない車が増えている。

○桜ヶ丘の移動を考える会でとったアンケート結果

送迎がなければ、家でぼーっとしているだけだった。

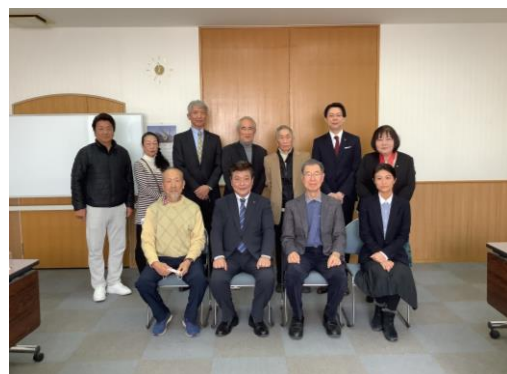
バス停まで歩けない。タクシーは電話がなかなか繋がらない。

家族に送迎を頼むのは気が重いけど、送迎があるから家を出られる。

2 意見交換から学んだこと

人とコミュニケーションをとることが本市の目指している健幸に貢献すること、そして外出するためには家の前から乗れる等の公共交通が求められている。

3 意見交換会の様子



多摩市議会議長 三階 道雄 殿

子ども教育常任委員長 本間 としえ

子ども教育常任委員会意見交換会 実施報告書

令和 5 年 1 0 月 2 5 日付 5 多議第 2 2 5 号にて報告した委員会主催の意見交換会については、下記のとおり実施したので、多摩市議会が行う市民意見の把握等に関する実施要綱第 7 条第 5 項に基づき報告します。

記

1. 概要

- (1) 日時 令和 5 年 1 1 月 2 8 日 (火) 午後 3 時 1 0 分～4 時 3 0 分
場所 多摩市役所 第二庁舎会議室
- (2) 対象 多摩市私立幼稚園協会園長会
- (3) 実施目的
幼稚園運営業務に係る現状と課題について聴取し共有するため
- (4) 実施経費 0 円
- (5) 派遣委員 委員長 本間 としえ、副委員長 岩崎 みなこ
委員 中島 律子、委員 大くま 真一
委員 あらたに 隆見、委員 松田 だいすけ

2. 当日の意見交換内容 別紙のとおり

3. 実施結果 別紙のとおり

【出席者】

(多摩市私立幼稚園協会園長会)

施設名	出席者
おだ認定こども園	石阪 恒子 園長
多摩みゆき幼稚園	関岡 貴之 園長
東京大谷幼稚園	近澤 剛士 園長
文化学園大学附属すみれ幼稚園	鈴木 功 園長
緑ヶ丘幼稚園	有馬 篤樹 園長
諏訪幼稚園	西 妙子 園長
富士ヶ丘幼稚園	田代 均 園長
錦秋幼稚園	秋間 善弘 園長
せいとく幼稚園	坂本 みさと 園長

2. 当日の意見交換内容

【テーマ】

日々の業務を通じて子育て支援を行う幼稚園において、中でも力を入れている取り組みや特色ある取り組み、行いたい課題があり実施に至っていないことなどについて

■ 園長会より

(1) 幼児教育について

- 幼稚園制度は約 150 年の歴史を持つ。保育園の規制緩和が進むなかでも厳格な基準をまもってきている。
- 非認知能力を育むことが重要。
- 自己解決力を育むことが重要。日々実践をしている。
- 体験的活動の充実に取り組んでいる。子ども農園の取り組み。
- 二歳児の保育に力を入れ、満三歳につなげていきたいと取り組みを進めている。
- 体力向上とともに心の強さを育成するためマラソンを実施。
- 何かを始める前には 2～3 分目をつむって集中する取り組み。
- 四季折々の伝統的な行事を大事にしている。
- 認定こども園移行時に自園給食施設を建てた。丁寧な幼児教育に「食」という柱が立った。サンマ焼き会など。
- 一輪車や一本歯の下駄、はだしでの屋外活動など子どもたちに多様な選択肢を与えている。
- 来年度から 3 歳児保育をスタートさせる。仕事しながらでも幼稚園という選択肢を提供する。

- 夏のこどもまんなかフェスタ、多くの園と連携して成功させたい。
- 日常的に子どもたちのアイデアを取り入れ、自己肯定感を高める。ただ、成果が見えづらい。日常教育の大切さを広めたい。
- 子どもが犠牲になることなく、幼児教育や保育がなされなければならない。
- 幼保連携型の認定こども園としてすでに2・3号認定が1号認定に逆転している。
- 地域とのつながりを通じて社会性を育む。
- 「幼児期に教育を受けさせたい」というニーズを感じている。

(2) 市への要望など

【保護者への経済的な補助】

- 国・都が保護者補助金をだしているが、市は非課税世帯・生活保護世帯以外はゼロ。都内自治体で51番目。区内では1万円以上出ているところもある。
- 金銭的な補助を少しでも増やしてほしい。

【職員確保】

- 教員の採用に苦労している。
- 教職員の採用が大変。ファミサポや子ども関係のNPOもある。マッチングなどで市にも力を貸してほしい。
- 障がいのある子など配慮が必要な子に対する先生の確保が難しい。公定価格が低すぎて雇えない。
- 採用難が苦しい。公定価格の引き上げなどが必要。
- 産休中の職員が6名おり、大変。
- 働きやすい環境を作っているが、人件費がかさんで大変。

【建替えなど】

- 建て替えが近い。新たな園舎を建てる場所を見つけるか、運営しながら建て替えることが必要。市にも協力をお願いしたい。
- 来園者駐車場をようやく設置できた。とりわけニュータウンでは土地の確保が大変。
- 建替えの時期が近付いている。
- 施設の老朽化が進んでいる。バックアップを。

【その他】

- 認定こども園化したいといっても市が認可しない。
- 様々な幼児教育・保育があり、かえって選択に困っている方がいる。市の方で取りこぼしの起きないように支援してほしい。
- 各園の魅力を市民のみなさんに知ってほしい。

- （地域で子育てをしてくという観点から）コミュニティセンターが18歳以上ということで、不登校児などが利用しづらい。

(3) 保護者関連

- 保護者のサークル活動を重視。読み聞かせ・図書クラブ・ガーデニング・パトロールの4サークル。
- 外国人の子どもも多く、親を支援につなぐ努力をしている。
- P T Aや父母の会はない。やれる人にやってもらうという運営をしている。
- 外国の方の語学支援を行いたい、財政面でできない。子ども達がヤングケアラーになりかねない。

(4) 少子化について

- 多摩市は出生率が都内で53番目。保育園をつくれば出生率が上がるというわけでは無い。
- 子育ての楽しさを知ってもらうことが重要。
- 小さい子たちへの政策を充実する必要がある。
- 妊娠届が700を切っている。園の運営に不安を感じる。

(5) 保育との関係について

- 「生まれてすぐに保育園に預ける」、「駅前の保育園を希望する」というのは大人の都合。子どものことを考えれば別の方法もあり得る。
- 預かり保育にも取り組んでいる。幼児教育の大切さと働く保護者の支援。子どもの成長を通して保護者を支援する。

(6) 地域との連携について

- 開園して55年。盆踊りを継続して行っている。
- 地域の方に子どもたちと遊んでもらう（あそびっこさん）。
- ダンボールコンポストのダンボちゃんの取り組みを地域の方や多摩市、子ども達と連携して進めている。
- 子どもを呼び込みたい。「ニュータウン」がステータスだった時代に戻すためにURなどとも連携したい。

■ 委員より

- 障がいの有無にかかわらず、一緒に暮らすことが必要。
- 金銭的な補助も必要
- 地域連携など、子どもを支える支援の実態をうかがえてよかった。
- 財政的な支援は必要。他市より遅れている部分については特に。
- 財源、人材確保が大変という話は様々な現場で共通している。
- 保育園・幼稚園ともに、子どもを取り巻く環境を担っていただいている。
- 想定以上の少子化の進行で経営に対するご苦勞を感じる。

- 私自身も幼稚園出身で当時の仲間とも連絡を取っている。
- 人件費の問題と設備投資の問題、多摩市の補助が少ない問題とお話しいただいた。多摩市は黒字自治体として、やるべきところにはお金を使うべき。
- 語学などには対応していく必要がある。
- 豊かな取り組みがお金の面でストップすることは問題。

※実施の様子（写真）



3. 実施結果

制度改定のなかで現行制度型、新制度型、認定こども園と様々な形態になっている幼稚園での多様な幼児教育・保育の取り組みをご紹介いただくとともに、課題認識についてうかがった。

各園長先生からは、「他自治体よりも低い保護者補助金」、「職員確保の大変さ」、「差し迫っている建替えの財政面や土地確保の問題」などの具体的な課題が示され、「保護者補助金の拡充」、「職員確保へのマッチングなどの市の協力」、「公定価格引き上げを含む人件費への支援」、「制度や各園の魅力の周知」などが要望された。その他にも、「少子化への不安」や「地域との連携の必要性」、「保護者への支援」などについても多くの園が言及した。

委員からは、常日頃から多摩市の子ども達を支えていただいていることへの感謝とともに、市としての財政的な支援や人材確保への協力などについて、その重要性が述べられた。

子育て支援を通じて、多摩市を「子育てにやさしい街」にしていくことの必要性について認識を共有した。

以上

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

子ども教育常任委員長 本間 としえ

子ども教育常任委員会意見交換会 実施報告書

令和 5 年 1 0 月 2 5 日付 5 多議第 2 2 6 号にて報告した委員会主催の意見交換会については、下記のとおり実施したので、多摩市議会が行う市民意見の把握等に関する実施要綱第 7 条第 5 項に基づき報告します。

記

1. 概要

- (1) 日時 令和 5 年 1 1 月 2 9 日 (水) 午前 9 時 0 0 分～1 0 時 0 0 分
場所 多摩市役所 第二庁舎会議室
- (2) 対象 多摩市私立保育園園長会
- (3) 実施目的
保育園運営業務に係る現状と課題について聴取し共有するため
- (4) 実施経費 0 円
- (5) 派遣委員 委員長 本間 としえ、副委員長 岩崎 みなこ
委員 中島 律子、委員 大くま 真一
委員 あらたに 隆見、委員 松田 だいすけ

2. 当日の意見交換内容 別紙のとおり

3. 実施結果 別紙のとおり

【出席者】

(多摩市私立保育園園長会幹事会)

法人名・施設名	出席者
バオバブ保育園	山根 孝子 園長
こぐま保育園	高橋 博子 園長
みどりの保育園	山口 明日子 園長
ピオニイ第二保育園	山口 由紀子 園長
かしのき保育園	近藤 直恵 園長
社会福祉法人 こばと会	元井 由隆 理事長

2. 当日の意見交換内容

【テーマ】

日々の業務を通じて子育て支援を行う保育園において、中でも力を入れている取り組みや特色ある取り組み、行いたい課題があり実施に至っていないことなどについて

(こばと会 元井理事長)

- ・コロナ禍の影響で3・4年空白期間があったのが実状。
- ・子育て支援をどう考えるかとなるが、保育園は保育という主体があるのでここを丁寧にやっていくことが子育て支援の根幹と考えている。
- ・感覚眺望や心理学、ABC理論とかエビデンスに基づいて保育を行っていくことが大事。
- ・子どもが生まれてお父さんお母さんの子育てが始まり、大事なことは経験則だが、自分がどうやって育ってきたかくらいで手立てが少ない人が多い。
- ・保育士自体も同じようなことがあり、自身の経験則にしか頼れない。だからきちんと科学的根拠のあるエビデンスを導入して物事の考え方について活かしていく。なぜそれが必要なのか理由がわかることで保育の喜びにもつながっていく。
- ・NP プログラム (Nobody's Perfect) というプログラムをみどりの保育園と実施している。
- ・保護者との関係や保護者同士が繋がっていくことが大事で、このことによりサークル活動も盛んになった事例がある。
- ・子育てする意味の理解を深め、人間が生まれ成長していく意味をみんなで共有し、地域自体が新たな形で生まれ変わるようなことを期待して活動している。

(バオバブ保育園 山根園長)

- ・通常の保育と一時保育・定期保育・子育てひろばをやっている。
- ・初めてお母さんになった人たちは不安感をお持ちの方が多い。私たちがどのように子育てをしているのかお伝えしている。
- ・自分の赤ちゃん以外の他の赤ちゃんを見てもらう機会ととらえている。その中で自分だけではないんだと感じてもらったり、自分の子の成長する姿を他の子の発達する姿を通して感じてもらい安心してもらう。
- ・遊びを通してお母さん同士もつながってもらっている。
- ・お母さん同士が子育てしながら意見や感想・悩みを相談し合うような環境になれるように進めている。
- ・スマイル 21（ダウン症の子の集まり）やティーダママの会など、地域で孤立しがちな方への支援、悩みの相談も行っている。

(ピオニイ第二保育園 山口由紀子園長)

- ・私たちの園は自然豊かな静かなところにある。平成 22 年当時は周りの方たちから、チョットうるさいですねなどの声もあり、保育を縮こまらせた時期もあった。
- ・10 年かけて子どもたちが縮こまらないように、地域の方たちとの関係性をつくり、子どもたちがのびのびと子育てできる環境を目指して取り組んできた。
- ・豊ヶ丘自治連絡協議会の皆さんと一緒に考えながら進めてきた。今では地域から、子どもの声を聴くと元気になるのでどんどん声を出してくださいなどのお声もいただき、信頼を得るようになった。
- ・地域との連携が深まるにつれて子どもと関わる人が増えてきたと実感している。
- ・昨年大規模修繕をしたが、ご高齢者のためのスロープなども設置し、地域の方も利用しやすいような取り組みも行った。
- ・少子化のダメージで 0 歳児の 9 名の定員が 12 月にやっと埋まったが、経営は厳しかった。
- ・大規模改修によって、今まで土地代のかかっていた部分の UR の土地代がかかり負担が大きくなった。
- ・地域のために用意しようとした施設も断念せざるをえなく、今私たちの大きな課題と思っている。

(こぐま保育園 高橋園長)

- ・198名定員でたくさんの子を預かっている。
- ・私たちが大切にしていることは、子どもたちが自分の考えを伝える。そして話し合ったりして、やりたいことがたくさん出るように取り組んでいる。
- ・1歳から5歳までの縦割りで保育をし、兄弟が一緒に住むような家庭で味わえるようなことが園でも味わえるような取り組みをしている。
- ・お母さんたちも5年間同じおうち(クラスのこと)でいるので、大変長くお付き合いしていただいている。
- ・50年続けているので、卒園した子どもたちが職員になったり、保護者になって戻ってきたりしている。
- ・地域に向けては週一回ひろば事業を行っているが、コロナ禍に閉じた影響や少子化の影響もあり現時点で利用が減っている。
- ・そんな中でも利用者の方は、安心して利用していただいている。
- ・子育てセンターや健康センターなどから紹介される例もたくさんあり、両機関とも情報交換をし、どのような支援をしていくか連携を図ってご家族の支援につなげている。
- ・近所のお年寄りや保育園に関わって下さった方でサークルを作っただき、子どもたちと交流など世代間交流をしてもらっている。
- ・子どもたちはいろいろな人に会うことを楽しみにしている。いろいろな人に見守られながら、保護者も子育てって楽しいなと思ってもらえている。
- ・0歳児の定員割れがあり今年度から定員を21名から15名に減らしている。現制度の中で定員を空けて運営していくのは財政的には大変厳しい状況である。
- ・多摩市で子育てをしたいと思っていただくためにも、子育ての入口のところで豊かな子育て環境が大事である。

(かしのき保育園 近藤園長)

- ・職員と保護者、保護者同士の交流ができるように力を入れてきた。
- ・コロナ禍でもこの取組みは感染対策をしながら続けてきた。
- ・参加者からは感謝の声が多かった。子ども同士や親同士もつながっていくということが大切だとコロナ禍の4年間を通して感じた。
- ・今年は父母会やおやじの会も、卒業されたOBも参加し活発に行うことができた。
- ・職員と保護者のブラスバンド部ができ、地域のお祭りや園内で演奏会を行い、青春時代を謳歌しているように大変盛り上がっている。
- ・保育園を通して知り合った人たちが長くつながっていくことが大事で、こういうことを支援できる園であり続けたいと思っている。
- ・妊婦さんの相談や保育所体験を行ってきたがコロナ禍以降全くニーズがなくなっている。
- ・駅から近い園にもかかわらず今年初めて0歳児に空きができ、衝撃的だった。
- ・多摩で子育てしようとしている人が減っているのか、子どもが減っているのかわからないが、子育て支援課や園長会でどのようにしたらよいか協議している。

(みどりの保育園 山口明日子園長)

- ・連光寺児童館と隣接しているので連携している。
- ・既存地域で地域の活動が活発である。その中で 50 年行ってきたことで地域に支えられている。
- ・戸建てが多いせいか兄弟で園にくる子が多い。
- ・高齢者の多い地域でもあるが子育て世代も地域には増えていると感じている。
- ・一時保育の中で今まであまり見られなかった課題の大きい育児困難家庭が増えている。担当者だけではなく子ども家庭支援センターとも連携をとって支援している。
- ・不適切保育という言葉があったが、そのような現状をととても悲しく思う。他の園同様に保育の質の向上にしっかりと努めている。
- ・関戸地域は地域とつながる難しさを感じている。地域支援を連光寺とは違うことを考えていかななくてはいけないと思っている。

【質疑応答】

(大くま委員)

- ・0 歳児の定員割れの話が合ったが、要望書も出されているがその後どのような協議がされているのか。
- ・UR の土地代の問題も新たにあったが、園長会や市側とはどのような協議がされているのか。

(ピオニイ第二保育園 山口由紀子園長)

- ・子ども青少年部の部課長や都市整備部も入り交渉していただいていると話を伺っている。
- ・0 歳児の空きについては、課題の理解はしてもらっているが、やはり実績に對することが必要で、入っていないものに支払いをすることは介護部門などとの整合性も含めて難しいとの見解であった。東京都の事業を含めて新たな地域向けの事業の展開を考えていると聞いてはいる。地域によっては待機の多い少ないもあり、難しいのではと思っている。今少なくともこれからどうなるのか読み切れない部分もある。

(岩崎副委員長)

- ・0 歳児が一番お金が支給されているが、実際 1 歳児や 2 歳児も手はかかる。0 歳児のお金が高いという制度の限界を感じている。
- ・育休取得も進み、1 歳児から突然預けられたりした場合の子どものショックなどを考えたときに、0 歳児から預けた方がいいのか、お母さんと一緒の方がいいのか子どもの専門家の皆さんはどう思っているのかお聞きしたい。

(こぼと会 元井理事長)

- 一概には言えないが、愛着ということが重要で愛着行動を測るテストがあるが、6割くらいしか取れていない実情がある。
- この6割の人も1歳・2歳となっていくとこの行動がとれなくなってしまう人もいる。
- 現在、発達障害のお子さんや不登校のお子さんが増えている。
- 愛着行動が原因かはわからないが、親子関係をしっかりとっていく、大人との関係を取っていくというのは家庭だけでできるのかということもある。
- 残りの4割の人はどうすればよいのかを知らないだけの話なので、その穴埋めをどうしていくのかということが課題。
- 社会としてしっかり考えていくことが大切であると思っている。
- そういう意味で保育園のノウハウを利用した活用の仕方が大事だと思っている。また、保育園職員が持つ専門性をどう活用していくのか視点を変えていくことで、地域における子育ての豊かさにつなげていけると思っている。
- そのために私たちも勉強している。外部からの評価スケールも取り入れている。
- 得た子育ての専門的な知識は全て保護者に返っていく、たぶんここまでできているのは多摩市だけである。
- これももっと活かしていくために市と共同して考えていくチャンスであると捉えている。

(中島委員)

- 自分の子がダウン症で、今は大きくなっているが、各園長先生はハンデのある子が一緒に過ごすということが、どれだけいいことかはすごくよく理解をいただいている。
- ここで問題になるのが加配のことで、ここにもう少しお金を入れてほしいとの思いがあり市議選に立候補した。
- 多摩市は他市に比べて補助が足りないと聞いている。
- 兄弟別々の保育園に行っているケースがどれくらいあるのか聞きたい。

(ピオニイ第二保育園 山口由紀子園長)

- 途中入園の子で1件あった。

(バオバブ保育園 山根園長)

- Brilliaの入居もあり4組が乳幼児の園と別れて入っている。
- 一ノ宮特有の問題かもしれないが、在園児でも指数の関係で入れなかった子がいた。
- 今後一ノ宮地区はBrilliaがもう1棟建つのと戸建ても増えている。若い方が移ってきてても入れない状況になってきている。
- 兄弟加点は1点あるが、その1点では入れない現状がある。結果的に兄弟で同じところに入れなければ加点の意味があるのか疑問に感じている。

(あらたに委員)

- ・コロナの影響もあり0歳児のニーズは変わっていると思う。
- ・今までは1歳児で入れないので0歳から預けているケースもあったが、育休の充実など社会情勢の変化により自宅で見ているケースも増えている。
- ・ひろば場事業など児童館でも始めているが、やはり地域の専門性の高い保育園で、自宅で子育てしているお子さんたちが自然に園に触れていく、園の雰囲気とかに馴染んだうえで預けていくことが大事だと思っている。
- ・自宅で子育てしている方たちは悩んでいる人が大勢いる。そのような人たちに子育てのプロの方がいろいろな形でアドバイスをしてあげられる仕組みをもっと強化していく必要がある。
- ・0歳児の枠がどうこうということではなく、プロの方たちがアドバイスをしていただくことに対して市として対価を払っていく。皆さんのスキルを活かしていく取り組みが必要と考えている。そういう意味で長年多摩市の子育てを支えてくださった皆さんを頼りにしている。

(松田委員)

- ・出生率、出生数、市外からの流入の減少はすごい。
- ・大型マンションの建設など特需があれば増えるが、ピークアウトすれば減る。継続的な出生数や流入を支えていくには何が一番必要なのかお聞きしたい。

(こぼと会 元井理事長)

- ・成功した事例として明石市があるが、同じようなことを東京都が始めた。都が行えば各市との間で差がなくなる。かえって難しくなる。そうすると新しいまちへと流れてしまう。
- ・だから多摩市として何ができるのか皆さんと一緒に考えていく必要があり、園長会でも考えている。

※実施の様子（写真）



3. 実施結果

【取り組み状況】

- ・多摩市の私立保育園は50年もの間、多摩市の子育てを支えてくださっている。
- ・経験則だけではなく、科学的根拠に基づいたエビデンスを用いた人材育成や保護者への支援、アドバイス等に取り組んでいる。
- ・地域との関わりを重視していただいております、世代間交流など、地域の中でなくてはならない存在として力を発揮していただいております。
- ・保護者同士の繋がりを大事にしながら取り組んでいただいております。
- ・コロナ禍でも感染対策を取りながら職員と保護者、保護者同士が交流できるように取り組んできました。
- ・各園とも高い保育の質を持ち、日々子育てについて研究されている。
- ・子育てセンターや健康センターとも連携を図り子育て支援につなげている。
- ・障がいを抱えているお子さんをお持ちのご家庭など、孤立しがちな方への支援や相談も行っている。
- ・縦割り保育を行い家庭で味わえるような保育に取り組んでいる園もある。

【課題等】

- ・地域によっては急激に保育ニーズが増え、保護者の要望に応えきれない現状も確認できた。
- ・0歳児の定員が埋まらない現状があり、0歳児の定員を減らした園もあった。
- ・0歳児は公定価格も高く、定員が埋まらないことで経営を圧迫している。
- ・駅から近い園でも0歳児に空きが出ている。
- ・ひろば事業を行っているが、少子化やコロナの影響で利用者が減っている。
- ・妊婦相談や保育体験もコロナ以降ニーズがなくなってきている。
- ・現在運営しているUR所有の敷地に改修後に土地の利用料がかかることになり、経営に大きな影響が出ている。
- ・今まであまり見られなかった課題の大きい育児困難家庭が増えている。
- ・一部の地域では地域とつながる難しさを感じている。

【所感】

- ・多摩市私立保育園園長会の皆様のお話を直接聞いたことは大変に良かったと思っています。
- ・長年、多摩市の子育てを支えていただいていることに感謝している。
- ・通常保育の忙しい合間で、科学的根拠に基づいたプログラムの実行や子育てに対する質の向上への調査・研究は多摩市にとって貴重な財産であると感じた。
- ・具体的なデータの取りまとめなど市がサポートできることがあるのではないかと、また、確かな形で質の高い保育を担保していくために市が取り組むべきことを明確にし、実行することが大事であると感じた。
- ・社会的に課題となっている発達障害や不登校の課題解決につながるようなデータの蓄積は非常に大事な取り組みであると感じた。

- 多摩市の園だけではなかなか広がらない部分もあるので、行政が大学などの研究機関とつなぎ、高いレベルで共に課題解決に向けて調査研究を進め行くことで、多摩市の子育て価値を上げ、子育て先進都市として更なる発展が望めるのではないかと感じた。
- 経営を圧迫している0歳児の枠の件は、高いスキルを持つ各園に自宅で子育てしているご家庭の支援や相談業務、講習会、交流事業など目に見える取組をお願いし、その対価としてお支払いするなど人財を活かす取組みの工夫が必要と感じた。
- 地域とのつながりについても園任せではなく、地域協創を掲げる多摩市ならではの取組みやその支援もこれからは大事な取組みとなる。

以上

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

子ども教育常任委員長 本間 としえ

子ども教育常任委員会意見交換会 実施報告書

令和 5 年 1 2 月 1 5 日付 5 多 議 第 3 0 8 号にて報告した委員会主催の意見交換会については、下記のとおり実施したので、多摩市議会が行う市民意見の把握等に関する実施要綱第 7 条第 5 項に基づき報告します。

記

1. 概要

(1) 日時 令和 6 年 1 月 1 7 日 (水) 午後 4 時 0 0 分～5 時 0 0 分

場所 多摩市役所 3 0 1 会議室

(2) 対象 たま食ねっと。

(3) 実施目的

子ども食堂・誰でも食堂運営業務に係る現状と課題について聴取し共有するため

(4) 実施経費 0 円

(5) 派遣委員 委員長 本間 としえ、副委員長 岩崎 みなこ
委員 中島 律子、委員 大くま 真一
委員 あらたに 隆見、委員 松田 だいすけ

2. 当日の意見交換内容 別紙のとおり

3. 実施結果 別紙のとおり

【出席者：12名（11団体）】

団体名等	出席者
たま食ねっと。	1名（座長）
子ども食堂 ほくの家	1名
ピンクララタマ 子ども誰でも食堂	1名
子ども食堂 ココっと	
リバティ	1名
こども食堂 えんそく	2名
オリーブきっちん	1名
みんなの食堂・スプーン	1名
子ども食堂 福祉亭	1名
フードバンク ソスペーゾ多摩	1名
わくわく子ども食堂	1名
NPO 法人テラス	1名

2. 当日の意見交換内容

【テーマ】

食事の提供を通じて子どもの見守り等に貢献される中で、特に力を入れている取り組みや特色ある取り組み、行いたい課題があり実施に至っていないことなどについて

■ たま食ねっと。より

①子ども食堂 ほくの家

- ・食材支援やひとり親、生活困窮家庭のサポート。
- ・コロナ前までは保育園児～高齢者までを対象に活動していたが、コロナによってお互いの接触を避けざるを得なくなりお弁当手渡しの活動となる。
- ・家庭の金銭的な状況や忙しさなどにより、芋の煮っ転がしを食べたことがなかったり、さくらんぼを食べたことのない子もいる。そんなこども達に食べてみるという経験の場を提供してきた。
- ・日本の食文化を継承していくということもやっていきたい。

②ピンクララタマ 子ども誰でも食堂

子ども食堂 ココっと

- ・2011年、地域で食事に困窮しているこども達にカフェの残りのご飯をおにぎりにして食べさせるところから始まった。以前はお金をいただいていたがコロナからは無料。
- ・お弁当の無料配達もしているが、ドア越しでお弁当を届けるだけでは会話ができないので親子がどんな状況か様子がわからない。コロナ前はもっと会話をしてコミュニケーションが取れていた。

- ・コロナから貧困・病気・鬱を引き起こしているご家庭が多い。親が鬱により仕事ができなくなり子どもも不登校になり、親子で引きこもっているご家庭がある。そういったご家庭にはカフェのランチの余りなどを無料でお渡ししているような状況にある。このような家庭がたくさんあることを知ってほしい。
- ・学校に行けなくなった子は、その後働くこともできず家に引きこもっているケースもある。どうにかしてあげたくても資格もないので市に相談しては？というくらいしかアドバイスできない。

③リバティ

- ・子どもの居場所、家族丸ごとサポートを心掛けている。
- ・ご飯の提供は手段。不登校の子は朝から利用する子もいる。
- ・貧困だけではない。親が忙しくて面倒を見られない家庭、母親が精神的な病気を抱えている子など支援を必要としている子は様々である。そういったお子さんを面接して登録してもらい利用してもらおう。
- ・食事の手助け、場所の提供でそのご家庭のストレスを少しでも解消できるならと思っやっている。
- ・困っていることにどこまで突っ込めるか。もっと何かできることがないかと思っても基本的に何もできないねという挫折感を味わうこともある。知識が足りない分は勉強会を重ねて努力している。
- ・子ども家庭支援センターから紹介を受けたご家庭にお弁当を届けたりもしている。
- ・ヤングケアラーのお子さんの支援もしたい。
- ・都の補助金は用途が食品に限られている。運営には人件費、場所代も必要なのでもう少し緩和してほしい。

④こども食堂 えんそく

- ・小学生以下月一回食事の提供をしている。
- ・活動を始めたばかりなのでもっと多くの人に知ってもらいたい。

⑤オーリーブきっちゃん

- ・畑をやっているので無農薬野菜を使ったお弁当を提供できる
- ・コロナまでは食堂形式で和気あいあいだったが、コロナからはお弁当配布となっってしまった。
- ・コロナがあけたので、利用者にその場で食べるかお弁当持ち帰りかどちらを希望するかアンケートをとって見たところ、家族の食事時間がまちまちなので持ち帰って食べたいという人がほとんどであった。
- ・母親が精神的な問題を抱えており、子どもに手作りの食事を食べさせてあげることができないご家庭もある。そういったご家庭にお弁当をもっていくと喜ばれる。また、奥さんを亡くした男性の方や精神疾患を抱えている方にも提供している。
- ・畑をもっていることや、お米の寄付・募金などもあるため現在は補助金を受けずに活動ができている。

⑥みんなの食堂・スプーン

- ・拠点がないので一ノ宮児童館を借りて、乳幼児と保護者を対象に月一回ランチを提供している。
- ・学校の長期休暇中の食事も考え、小中高生にもランチを提供。食材やお菓子の配布もしている
- ・乳幼児から高齢者まで、世代間交流をしながら食事をするという地域の場所を作りたいが場所がない。希望としては地域でお互いを支えあう場所がほしい。
- ・コミュニティセンターを使ったこともあるが苦情が出たため使えなくなった。子どもと高齢者、お互いを理解しあって交流していく場所を作りたいし作ってほしい。

⑦子ども食堂 福祉亭

- ・月一回の子ども食堂と金曜日にパントリーで食材配布を行っている。
- ・子どもたちがたくさん集まってくれるようになっているが、保護者との関わりも大事だと考える。外国の方もたくさんいらっしゃるので、単なる食材の受け渡しにならないように会話を通じてのコミュニケーションも大切にしている
- ・パントリーのお手伝いを子ども達がやってくれたりするようになった。
- ・多世代の交流を大切にしたい。
- ・もっと回数を増やしたいと思っても資金不足な部分がある。120人分作るとなると予算が厳しい。補助金が継続することを望む。
- ・資金だけでなく、ボランティアの方に毎回安定的に来てもらうことができるかという課題もある。

⑧フードバンク ソスペーズ多摩

- ・フードバンク TAMA からの支援が無くなってしまった。
- ・今はメンバーからの紹介、多摩市社会福祉協議会からの寄付金、竹取の湯からお米、個人の農家さんからの野菜など、様々な方の協力により集まったものを、子ども食堂や多摩市5ヶ所で配布している。
- ・年末に食糧支援を行った際に質問したところ、フードバンクがどういうものかあまり知られていなかったのもっと知ってもらうようにしていきたい。
- ・本当に生活に困っている人たちに届いているのかが課題。

⑨わくわく子ども食堂

- ・月2回お弁当配布。
- ・アンケートをとったところ食堂ではなくお弁当が良いと言われる。

⑩ NPO 法人テラス

- ・2000年からやっており、去年法人となる。
- ・不登校の子も来ているが、元気な子が多い。食堂は20時までだが21時頃まで公園で遊ぶ子もいるためそんな日はそっと見守っている。

- ・運営は補助金だけでは厳しく、半分くらいしか埋められない。お祭りで屋台もやっているが利益が出ない。
- ・学習面では、教材を出しても持ってこない子もいるので難しいが、集中力を出せる時期はその子によって違うのでそれぞれに支援が必要。
- ・市につなげたくても当事者は役所に行くことに抵抗がある。行ったら怒られるに決まっている、自分の生き方を責められると思うとなかなか足を運べない。そこをいかにして繋げていくかだと感じている。

■ 委員より

- 補助金が無くなった場合のことやお祭りの出店料が高すぎる件など、市として考えていかなければならない。
- 子ども食堂への個人からの提供に関して、提供してくれる人はいるのでうまく繋げていければ。
- 課題の形態も様々だが、やはり金銭面が大変。今後の市の在り方など課題があると思う。市や公的な窓口に繋げることのハードルが高い。それまでの経験があって、なかなかきちんと一人一人に寄り添った対応ができていなかった。その人自身を支える仕組みを作りあげることが必要
- それぞれみんな課題が違う。子どもだけにスポットを当てると、学習面のサポートの話もあったが、社会にこれから出ていってもらうためにはコミュニケーション力もつけていかなければならない。そういったものをどうやって養っていくかということも全体でサポートする仕組みを作っていくことが大切。多摩市だけでやっていくことは難しくても、国や都に働きかけをして一つ一つの課題にどうやって対応していくのか、そういった組織作りをしっかりとやっていかなければならない。
- 不登校についても子ども教育常任委員会で考えている。東愛宕中学校に不登校の特別な教室ができるがそういった情報などももっと皆さんと共有していきたい。
- 地域にはいろんな方がいる。皆さんの善意でここまできているが、たくさんの力が大きな輪にならないと難しいんだなと感じた。学習支援、コミュニケーション力、市に何か物を申すことの難しさなど課題がたくさんある。補助金の使い勝手も良くなる形にしなければならない。

※実施の様子（写真）



3. 実施結果

子ども食堂は経済的に恵まれない子どもへ食事を提供すること以外にも、子どもの孤食解消や子どもの居場所作り、地域の方とのコミュニケーションの場としての役割があるが、実際に活動しておられる方に話を伺うことにより、地域には経済的に問題はなくても親が忙しくて面倒を見られないご家庭や、母親が精神的な問題を抱えているために食事が作れなかったりするご家庭、親子で引きこもりのご家庭といった様々な問題を抱えたご家庭に対しても支援をされていることがわかった。食堂に来てもらい会話をすることによって、一人一人に寄り添いながら悩みを聞き、市や公的窓口に繋げるなどの努力もされてきた。食事だけでなく学習支援や不登校の子どもの相談などをされているところもある。コロナにより食堂の利用が難しくなりお弁当配布がメインになってからは、今まで対面でやれていた会話でのコミュニケーションが難しくなってしまう、家でどのように過ごされているのかなど様子がわからなくなっているご家庭も多いとのこと。ただお弁当を届けるだけでは解決できないこともたくさんある。行政がどのようにサポートできるか考えていく必要がある。

ヤングケアラー支援の取り組みを始められた事業所もあり、家庭が抱える課題が多岐に渡っていることを改めて感じた。困っている人が自ら声をあげることとはとても勇気がいることであり大変難しい。公的機関に相談に行けない人をどうやって行政が支えていくか。

子ども食堂等でキャッチした子どもたちの情報を教育現場や行政につなげていくために、情報共有する努力や仕組みが必要ではないか。

また、現在の東京都の補助金は用途が食品のみに限定されているとお聞きした。運営には食材だけでなく人件費や場所代も必要になる。ボランティアで来ていただく方にはせめて交通費くらいお渡ししたいという声も聞かれる。もう少し補助金の用途が使い勝手の良いように緩和される必要があるのではないかと感じた。

その他にも、フードバンクの支援として、場所の提供や周知の応援の要望も伺った。

今回初めての意見交換会であったが、今後も意見交換会の場を設けて改善点などを共有できたらと思う。多摩市だけでやっていくことは難しくても、国や都に働き掛けをして一つ一つの課題にどう対応していくのか、そういった組織作りをしっかりとやっていかなければならない。

以上

多摩市議会議長 三階 道雄 殿

子ども教育常任委員長 本間 としえ

子ども教育常任委員会意見交換会 実施報告書

令和 5 年 1 2 月 1 5 日付 5 多議第 3 0 9 号にて報告した委員会主催の意見交換会については、下記のとおり実施したので、多摩市議会が行う市民意見の把握等に関する実施要綱第 7 条第 5 項に基づき報告します。

記

1. 概要

- (1) 日時 令和 6 年 1 月 1 8 日 (木) 午後 3 時 0 0 分～4 時 3 0 分
場所 多摩市役所 第一委員会室
- (2) 対象 多摩市認証保育所連絡会
- (3) 実施目的
保育所運營業務に係る現状と課題について聴取し共有するため
- (4) 実施経費 0 円
- (5) 派遣委員 委員長 本間 としえ、副委員長 岩崎 みなこ
委員 中島 律子、委員 大くま 真一
委員 あらたに 隆見、委員 松田 だいすけ

2. 当日の意見交換内容 別紙のとおり

3. 実施結果 別紙のとおり

子ども教育常任委員会意見交換会実施報告書 別紙

【出席者：13名（6法人10施設）】

法人名	施設名	出席者
株式会社ウィズチャイルド	ウィズチャイルド さくらがおか幼保園	3名
	ウィズチャイルド さくらがおかみなみ園	
	ウィズチャイルド さくらがおかこども園	
社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会	キッズガーデンかわせみ	1名
株式会社ライフケアサービス	永山駅前こどもの家	4名
	多摩センターこどもの家	
株式会社ドリーム	みらい保育園	2名
株式会社チャイルドタイム	多摩センター エンゼルホーム	1名
アイラム株式会社	キッズサポート多摩 めぐみクラブ	2名
	キッズサポート多摩第二 めぐみクラブ	

2. 当日の意見交換内容

【テーマ】

日々の業務を通じて子育て支援を行う保育所において、中でも力を入れている取り組みや特色ある取り組み、行いたい課題があり実施に至っていないことなどについて

■ 多摩市認証保育所連絡会より

(株式会社ウィズチャイルド)

- 現在聖蹟桜ヶ丘エリアで3つ認証保育所を運営、2月に4つ目がオープンする予定。
- 近隣の企業を対象とした企業型保育所も運営、そこに病後児保育も併設している。
- 学童保育（私立小学校対象）や保育園の給食が食べられるコミュニティカフェを運営。
- モンテッソーリ教育を採用している。
- 今後はフリースクール運営も模索。
- 従前から保育所型認定こども園資格の要望、認可保育所の認可が取りたいというものもあるが、株式会社であるため難しいのが現状。

○防災備蓄品について、認可保育所は補助があるが認証保育所はない。

(社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会)

- 就学前の子どもたちを預かっていたが、現在は生後五か月から0～2歳児も受けている。
- 出生率低下の影響をかなり受けているため力を発揮できない。
- 働く世代の子育てや親の働き方に関わらず、子育てするなら多摩という形を作りたい。
- 我々のような既存施設をどんどん利用して、出生率・出生数を向上させてもらいたい。
- 建物の老朽化が進んでいるため修繕費のことや、既定の職員人数では足りない場合があるので人材確保のことなどについても一緒に考えてほしい。

(株式会社ライフケアサービス)

- 永山駅・多摩センター駅徒歩1分で、30名小規模で運営。保育士配置に関して基準よりも多く配置している。
- 働く保護者支援・家庭支援に力を入れている。例えば夕ご飯のサービスやおむつのサブスク等も行っており、第三者評価において保護者満足度評価が高い。
- 取り組みたいことがあっても、人件費、施設費等の予算に限りがある

(株式会社ドリーム)

- 家族に近い家庭の延長というような保育を目指している。
- 近隣の地元イベントや、畑を借りて食育に取り組んでいる。
- 基準よりも多くの先生を配置。
- 子どもが減ると補助金が(つまり運営費が)減る。
- 出生率低下で0歳児が少なく定員割れが痛手であり、その辺りの補填が困難。
- 運営面では人材採用において紹介会社、派遣会社が入るためお金がかかる。さらに運営費、広告費などの持ち出しが非常に多い。

(株式会社チャイルドタイム)

- 平成25年4月から開所、当初5歳までの受け入れ予定であったが、多摩市より待機児童対策の要請があったため、2歳までの受け入れに切り替えたいきさつがある。
- 2歳までの受け入れの為、3歳以降もう一度保育所を探さなければいけない課題がある。
- せいとく幼稚園、諏訪幼稚園と行事等で交流し、3歳以降のプレ的な連携をおこなっている。
- 満3歳クラスが幼稚園でできているため、2歳児が辞めてしまう。
- 子育て相談が必要な保護者が多い。

(アイラム株式会社)

- 1歳児待機が多かった時に0～2歳を多く受け入れていた。
- 3歳以降の問題もあるため現在は3～5歳を厚めに約80名、全体で150名のお子さんを預かっている。
- 制度上40名定員の補助額が一番多く、40名以上の補助からどんどん一人当たりの補助額が減っていく。
- 人数と年齢で補助金額が変わる、または増えるほどマイナスという現象が起きている。
- 株式会社のため社会福祉法人のような税の優遇がない。
- 認証保育所も保護者に対する支援は手厚くなり入りやすくなったが、事業者に対しては厳しい。

■ 質疑応答

○人件費は上がっており、運営費は全然みてもらえない。そこにきて急激な物価高騰で運営経費にしわ寄せがきていると思うが、どうそのあたりを対処しているのか。

⇒物価対策補助の市からの条件も、食費や光熱費などかなり条件が限られている。正直なところ自助努力しかないのが現状。

⇒光熱費についてだが、多摩センターエリアは地域冷暖房でかなり高額な光熱費を払っている。

○アレルギー対応について、認証保育所はかなり前から取り組まれていたと記憶しているが、アレルギー対応に対する補助制度などについても考えるべき段階にきていると思う。

⇒保護者からのアレルギーの証明があれば、市からアレルギー対応に関する補助が出る。

○補助金の人数と年齢の切り方によって補助金がマイナスしていく現象に関して考えると、自治体としては税制の優遇について考えていった方が良いのではと思う。

⇒現状考えると補助金の上乗せよりも有効だと思う。

⇒思い切った税制優遇をやってもらえれば取り組めることも増え、より地域の子育てに貢献できる。

○障がいのある子どもが家にいても働きに出るお母さんが多い時代で、0才から預けたいという方も多く、少人数で目が届いている認証保育所に入れたいという声も多い。現状での実際の受け入れ状況や、職員確保の課題などあるか。

⇒医療ケアが必要なため認可保育所で断られてしまい相談に来られる方もあった。多摩市の認証保育所は制度化される前から看護師資格者が常駐している園も多く、必要な医療ケアの内容を確認し受け入れたこともある。

○障がいのあるお子さんの受け入れに際して、看護師資格保有者や園に対して補助などはあるか。

⇒何人も受け入れ卒園させてきたが、補助はない。

※実施の様子（写真）



3. 実施結果

保育所として子どもを預かる他にも、時代のニーズに対応して保護者支援や家庭支援、場合によっては産後ケアに近い取り組みもおこなっている。出生数、出生率低下に関しては認可保育所の意見交換会のとおりではあるが、事業者に対しての差に関しては、認可保育所と認証保育所ではやはり大きいものを感じる。

例えば、建築費・修繕費等の補助金が認証保育所には無く、認可保育所との格差をどのように考えたら良いのか調査したい。

また、多摩市では保育所型認定こども園の資格を要望しても、株式会社であることを理由に受け入れていないとのこと。他市の状況も調べ、その正当性を検証してみたい。

そして、保育全般に言えることは人手不足問題であり、求人の広告費が経営を圧迫している状況とのこと。保育士等の求人を多摩市として応援すべきであると感じる。

その他、園児が40名を超えると一人当たりの補助額が減ることや、看護師に対する補助も研究してみたい。

また、税制などに関しては一朝一夕にどうにかなるものではないが、取り急ぎの部分では、防災備蓄品などに関しては認可・認証問わず行う必要があると感じる。

以上